早期発見のための、がん検診とは？

道内の市町村では以下の
５種類のがん検診を実施しています。

詳しくは、お住いの市町村に
お問い合わせください。

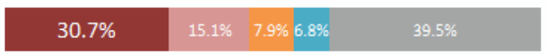
（お勤めの方は、職場の健診で受診できる場合があります。福利厚生または医療保健の担当窓口にご確認ください。）

	検診内容	対象者
胃がん検診	●胃部X線検査 バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、X線で胃の形や粘膜を撮影します ●胃内視鏡検査 口や鼻から内視鏡を挿入し、先端についている超小型カメラで胃の中の様子を直接モニター画面に映し出して観察します	50歳以上 2年に1回 ※当分の間、胃部X線検査については40歳以上に対し年1回実施可
肺がん検診	●胸部X線検査 肺全体をX線で撮影する検査です ●喀痰細胞診 痰にがん細胞が混ざっていないか調べます	40歳以上 年1回
大腸がん検診	●便潜血検査 便の中の血液を調べ、大腸内の出血の有無を調べます	40歳以上 年1回
乳がん検診	●乳房X線検査（マンモグラフィ） 乳房を装置で挟み、圧迫してX線で撮影する検査です	40歳以上 2年に1回
子宮がん検診	●細胞診 子宮の細胞を採取し、顕微鏡で診察します	20歳以上 2年に1回

北海道のがんの実態

がんは死亡原因の第1位であり、がんで亡くなる方の割合が全国でも特に高くなっております。

＜北海道における死因割合＞



- がん（悪性新生物） 19,158人
- 心疾患 9,450人
- 脳血管疾患 4,909人
- 肺炎 4,234人
- その他 24,666人

出典：厚生労働省 平成29年人口動態統計

＜がん（悪性新生物）の死因割合全国順位＞

1位　北海道	31.5%
2位　大阪府	31.2%
3位　神奈川県	30.62%
4位　福岡県	30.60%

出典：厚生労働省 平成27年人口動態統計　※参考：全国平均28.7%

このリーフレットに関する
問い合わせ先

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
がん対策グループ
☎ 011-204-5117

北海道

がん検診

あなたと、
あなたの大切な人のために。

知っておきたい「がん」の話

日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。がんは他人事ではありません。
誰もがかかる可能性のある身近な病気です。だからこそ、検診を受けて早く見つけましょう。
早期がんで発見できると、9割以上が完治の可能性があります。
あなたと、あなたの大切な人のために必ずがん検診を受けてください。

あなたが受けるべきがん検診がわかります。裏面をご覧ください。

※男性は40歳から、女性は20歳から、国によって対策型検診として推奨されているがん検診をご紹介します。

がんは早期発見すれば、克服できる病気です!

もしがんになっても、早く発見して、適切な治療をすることで、普段の生活に戻れる人がたくさんいます。
実際にがんを経験された5人の方々にご協力をいただき、
より多くの方々にがんのことをよく知っていただき、どんなことができるか、
どんな風に向き合えばよいかを考える機会になればと**メッセージをいただきました。**
ご自身やご家族、周囲の方々のためにもぜひがん検診を受けてください。

胃がん経験者

大切なのは、がんを知り、勇気を持って闘うこと

私が胃がんを患ったのは2007年、49歳の頃。当時勤めていた病院のがん検診で胃がんと診断され、内視鏡下で手術を受けました。その病理検査の結果、がん細胞の深達度から腹腔鏡下で胃の4/5を切除することになりました。その4年半後、がん検診で食道がんであることを宣告され、再び入院。約3ヵ月の入院期間中に3回手術を受け、胃はすべて切除、食道も1/3切除され、小腸と食道とをつなげている状態です。がんを発症して最も悩んだのは、妻にどう知らせるか。がんと闘うこと、病気を治すこと、そして生きること、仕事をすること、家族を守ること…彼女の理解を得られるようにひとつひとつ説明しました。大切なのは、がん検診を受け、病気を勉強し、がんを患っても勇気を持って闘うこと。そのためには、家族の支援が絶対必要です。そして、治療を受けるためには、保険や貯金の準備をしっかりするべきだと思います。

札幌市 / 松浦 紀之さん

肺がん経験者

がんで苦しむ人が少なくなってと願う

自覚症状はほとんどなかったのですが、職場の健康診断で肺に影が見つかり、肺がんと判明。脳転移も見つかりました。数年にわたる抗がん剤治療中、しびれなどの副作用、二度の脳梗塞や腫瘍内出血などがありましたが、幸い脳の腫瘍が消えて肺がんも半減し、現在は毎月1回の定期検診で経過観察しています。告知の際に1年生存率50%と言われましたが、子どもたちの成長を見届けたい一心で10年が経過しました。がんになったことで当たり前の暮らしが当たり前ではないと実感し、家族と一緒に暮らせる幸せをかみしめています。私は喫煙者でしたが、煙草を吸わない人でもがんになる可能性はあります。私は偶然職場の健診で見つかりましたが、がんの早期発見には検診が不可欠。多くの方ががん検診を受け、私のように苦しむ人が一人でも少なくなればと願っています。

札幌市 / 内山 浩美さん

大腸がん経験者

検診の結果を受けて、どう行動するかが大事

職場の人間ドックを受け、便潜血検査で2年続けて陽性反応が出ましたが、症状が全くなかったのでそのままにしていました。知人に促されて、かかりつけの病院で血液検査をした結果、すぐに大きな病院へと指示され、大腸カメラによる検査を受けました。検査後、先生から「腫瘍が大きすぎるため、開腹手術をします」と言われ、すぐに入院。手術を受け、1か月の入院後は経口抗がん剤にて治療。手術から13年経ちますが、再発も転移もなく現在に至ります。がん検診を受けるのはもちろん、検診の結果を受けて、どう行動するかも大変重要です。人間ドックで最初に陽性反応が出たとき、すぐに検査を受けていたら、もっと早期で見つかっていたかもしれません。この経験をもとに、現在は、がんの語り手として検診の大切さを伝える活動をしています。たとえ症状がなくても、ぜひ検診や検査を受け、大切な命を守って頂きたいと思います。

札幌市 / 近藤 由佳さん

乳がん経験者

がんになっても、明るく前向きに生きられる

以前、乳がんを患った知り合いの方から「乳がんって、厚手のパンストの中に米粒が入ったような感じ」というお話を聞き、お風呂に入るたびに触って確かめていました。そんなある日触ってみると、まさに“パンストの中の米粒”みたいな感触を発見。何日かシコリがあることを確かめ、「ああ乳がんだな」と確信しました。38歳の時でした。病院で細胞診を行い、乳がんであることが判明。乳房の一部を残す温存手術と放射線治療、ホルモン療法を行いました。私は退院後、滝川で「ピンクリボン・ディスカバ」という市民団体を起ち上げ、乳がんの早期発見などの啓発活動を行っています。そこで訴えているのは、今は、がんは恐ろしい病気ではなくなってきている。がん検診の必要性はもちろん常に自分の胸に関心を持ち早く見つけることが大事だということ。がんになっても、明るく前向きに人間らしい生き方ができるということを、みなさんにお話しています。

滝川市 / 柴田 直美さん

子宮頸がん経験者

勇気を持ってがん検診を

1年ほど不正出血が続いて子宮内膜症と診断され、1年後に大量出血。子宮頸がんと言われました。手術を行った際、さらにリンパ節や鼠蹊部にも転移が見つかり、抗がん剤と放射線の併用療法を行い、10年以上経った今も再発はありませんが、後遺症とは一生付き合っていかなければなりません。がんの経験を活かし、現在はがん患者さんのカウンセリングを行っています。終末期の方も多いのですが、諦めないで生きる人間の強さにこちらが励まされる思いです。がんになったことで実感したのは「生きているものには必ず死がある」という事実。だからこそ一日一日を大切に生きたいと思いました。そして昨年初孫が生まれ、生きている人には命をつないでいく責任があると強く感じます。自分の命はひとつだけ。それを守るのも自分だけ。子宮頸がんは早期発見で妊娠・出産も可能です。子宮がん検診は行きづらいと感じる女性は多いと思いますが、将来の様々な選択肢を残すためにも、悔やむ前に勇気を持って、ぜひがん検診を受けてほしいと思います。

札幌市 / N・Sさん